

出産―起業、日本の森を 元気にしよう!!

かわばた はやみ さとこ
川畑(速水)理子

(株式会社グリーンマム代表・平17文)



子どもとなるべく一緒にいたい、でも働きたい。母親なら一度は考えることではないだろうか。私には手に職もなかった。なので、自宅で働くためには起業するしかなかった。二〇〇九年三月末に長女を出産、同年十月、夫に背中を押されて木製品を扱う小さな会社を設立した。

森林破壊の一番は途上国における違法伐採といわれる。違法伐採木材を輸入しつつ、国内林業は衰退する日本。娘には違法な木材で作られたおもちゃを使わせたくない。そこで、FSC森林認証(適切に管理された森林に与えられる)材を使ったおもちゃの販売を始めた。

私自身、三重県の速水林業という林家で育つたため、若い力で林業の再生に役立ちたい、と仕事内容に迷いはなかった。しかし、現実はその甘くなかった。乳飲み子を抱えながら、会社登記のために役

所に通い、営業に行く毎日。打ち合わせ

の日は、会社の近くで思い切り遊ばせ、寝かせてから向かった。いつもドキドキしたが、子連れの仕事は新鮮だったのか、どこでも温かく迎えられ、嬉しく有難かった。大きな展示会にも参加させてもらい、多くの人がFSC森林認証に興味を示してくれたことで、手応えを感じた。展示会中も、もちろん娘が一緒だった。

その後、国産材を必要とする企業への情報提供、提案、材の納品も始めることになった。起業して半年ほどの頃、スーパーストックトーキョーを経営する(株)スマイルズと出会った。店舗に使用する材を国産材に切り替えてもいいというのだ。手伝わせて下さい!と申し出てから怒濤の日々が始まった。横浜店でFSC森林認証材を使ってもらった後、計五店舗に国産材を納品。大阪店では本来商品化

できないB級品の尾鷲ひのきを使い、都会のアイデアと三重の職人技で迫力ある壁に仕上がった。上野駅店はJR東日本が所有する鉄道林のひのきを使用した。大企業相手の仕事に、毎日心配で眠れないほどだったが、なんとか実現することができた。今後も様々な業界に国産材の使用を提案していきたい。

現在、(株)冬舎エデュケーションに声をかけて頂き、国産材製品を広めて日本の森を元気にするプロジェクトに携わっている。国産材の商品で日本が溢れる日もそう遠くないかもしれない。

起業して一年半、仕事と娘と遊ぶのに必死で振り返る暇すらなかったが、起業当時は想像もできなかった自分がここにいると感じている。十年間を過ごした義塾での人とのつながりは卒業後の方がもっと濃いもので、お世話になった方が塾員であることも多かった。この場をお借りし、(株)市瀬の市瀬泰一郎社長(昭56政)を始めとして支えて下さっている皆様に御礼申し上げます。成長し続けることが恩返しと思いい、これからも前進あるのみ!夫と家族に感謝しながら子育ても仕事もがんばっていきます!